

準

五年 13
筆順 13
オシ ジュン



成り立ち

すばやく飛ぶ「準」(たか的一種)の「速い」という意味を表した「準」と、水の意味の「シ」とを組み合わせて作った字です。

水はどんな状態におかれても、すばやく平らな状態になります。「その性質を利用して、「水平」であるかどうかを測る道具」のことを表した字です。今は「水準器」と言います。昔は「水もり」と言いました。

今では、「準」は、広く「物を測る(基(基準))」という意味に使われています。【例】基準、標準。

「基準に「従う(のつとる)」という意味にも使われます。【例】準拠、準則。

また、「あとに「従う」ということから、「優勝者に従う」という意味で「準優勝」という使い方があります。

使い方

▽昨日の身体検査で、わたしは、体重も身長も標準以上ありました。お母さんがとても喜んでくれましたが、これはお母さんのおかげです。

▽運動会で、ぼくたちのクラスが準優勝しました。来年は優勝したいと思います。

熟語例

▽標準(標(4年606)は「目じるし」。目標とする基準のこと。「平均的」な意味にも「お手本」の意味にも使われます。)

▽基準(基も準も「本」。基本となるもの)のことを言います。標準と同じ意味にも使われます。)

▽準拠(基準に従うこと。【例】この本は新かなづかに準拠して書かれています。)

▽準則(のつとるべき規則。従うべき規則。)

▽準優勝(優勝に次ぐもの、という意味)

▽準決勝(会員に近い取りあつかいを受けるもの)

▽準決勝(決勝戦のすぐ前の試合のこと。)

序

五年 7
筆順 7
オン ジョ



成り立ち

「あらかじめ(前もって)」という意味の「予(4年430)」と、広い家の形を表した「广」とを組み合わせて作った字です。

「奥の間の前」にある「広間」のことを表した字ですが、奥の間に通る順番として、まずこのひろまを通りますので、「はじめ」という意味に使われます。【例】序文、序説、序章、序曲、序の口。

また、「順番」という意味にも使われます。【例】順序、序列、秩序。

使い方

▽ぼくが今読んでいる本には、序文がついています。そこには、なぜ、この本が書かれたか、ということが書いてありました。ぼくは序文のついている本を読んだのは、はじめてなので、とても面白いと思いました。

▽わたしは、「魔笛」というオペラの序曲が好きです。オペラの内容は、ちょっと難しく、よくわかりませんが、序曲は短いし、とてもきれいな曲なので、好きです。

熟語例

▽序文(本の一番はじめに書いてある、前書き)

▽序説(本論に入る前の、準備としての説)

▽序章(本の一番はじめの章)

▽序曲(オペラなどで、主要部分の前に演奏される曲)

▽序の口(はじまったばかりのところ。もともとは、相撲の番付で、最下位のことを言い、そこから、意味が広がったものです。)

▽順序(順番。「順序よく並んで下さい」などというふう

に、つかいます。)

▽序列(ある基準に従って並べた順番)

使い方

▽ぼくが今読んでいる本には、序文がついています。そこには、なぜ、この本が書かれたか、ということが書いてありました。ぼくは序文のついている本を読んだのは、はじめてなので、とても面白いと思いました。

▽わたしは、「魔笛」というオペラの序曲が好きです。オペラの内容は、ちょっと難しく、よくわかりませんが、序曲は短いし、とてもきれいな曲なので、好きです。

熟語例

▽序文(本の一番はじめに書いてある、前書き)

▽序説(本論に入る前の、準備としての説)

▽序章(本の一番はじめの章)

▽序曲(オペラなどで、主要部分の前に演奏される曲)

▽序の口(はじまったばかりのところ。もともとは、相撲の番付で、最下位のことを言い、そこから、意味が広がったものです。)

▽順序(順番。「順序よく並んで下さい」などというふう